

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 <b>2818</b> 号	氏名	大矢 崇志
審査担当者	主査	内村 直尚	(印)
	副主査	田中 永一郎	(印)
	副主査	谷脇 孝幸	(印)
主論文題目：			
<b>Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome</b> アスペルガー症候群児童における探索眼球運動の障害			

### 審査結果の要旨 (意見)

#### 審査結果の要旨

従来、統合失調症に用いられてきた探索眼球運動の検査をアスペルガー症候群に応用し、その特徴をまとめた研究である。研究の手法は倫理的に配慮され、統計的な解析が適切に行われている。また、本研究で充分説明できない点は limitation として報告しており、客観的な報告ができています。以上より、本論文が学位論文の水準に達していることを認める。客観的な評価が難しいアスペルガー症候群の児童自体を対象にし、その眼球運動の特徴を鑑別に応用しうる可能性を示した研究であり、今後の発展を期待したい。

#### 論文要旨

統合失調症において社会性の評価が可能とされる探索眼球運動をアスペルガー症候群に対して測定し、その社会性を客観的に評価する事を目的に研究を行った。23人のアスペルガー症候群と年齢を合わせた23人の定型発達群において、アイマークレコーダー(EMR-8B)を用いて、探索眼球運動を測定した。記録することを前提に横S字型の幾何学図形を自由に見てもらい自由視課題、一部異なる図形を見せて比較した後に標的図との違いについて質問し、答えた後にさらに念を押す念押し課題における眼球運動を測定した。測定指標は、注視点、総移動距離、念押し課題の反応的探索スコアである。自由視課題において、アスペルガー症候群は総移動距離が有意に短かった。念押し課題において、アスペルガー症候群は反応的探索スコアが有意に低かった。同課題において自閉症スクリーニング質問表のスコアと注視点、総移動距離の間に負の相関を認めた。アスペルガー症候群は探索眼球運動に機能障害がある。念押し課題を用いた探索眼球運動の測定は、アスペルガー症候群の社会性の評価に有用である。